

### 基本的な考え方

- ① 本市や県における警戒度に応じて、適切な教育活動を実施する。
- ② 感染症対策を徹底しながら、最大限の学びの保障を実現する。
- ③ 児童の心身の状況を把握し、きめ細やかな指導・支援に努める。

※ 市内の児童の感染者数は横ばいの状態であり、引き続き、気を引き締めて感染症対策（ガイドラインに沿った行動）をとる必要がある

※ 感染防止対策 夏のポイント

- ・換気の実施（エアコン利用時においても常時換気）
- ・熱中症への注意（気温・湿度や暑さ指数の確認、適切なマスクの着脱）
- ・こまめな水分補給

## 1 始業前

- 教室の窓を開け、換気する。（北と南の2方面）

## 2 登校

- 登校前に必ず検温することを徹底する。（健康観察カードの提出）
- ・発熱や咳等の症状がある場合は登校を見合わせる。
- 会話を控えるよう指導し、マスクをはずす。（下校も同様）
- 登下校時の日傘やネッククーラーの使用を認める。
- 一定の間隔を開けて、一列で歩くように指導する
- 昇降口では密にならないよう、人との間隔を保ちながら入るように指導する。（昇降口は室内なので、マスクを着用）
- 教室に入る前に30秒程度の手洗いを行い、手指消毒を行うことを徹底する。
- 授業中を含めてこまめな水分補給を促す。

## 3 朝の会

- 健康観察をしっかりと行う。
- ・児童の表情等を確認しながら、検温の記録や健康状態の確認を行う。
- ・検温を行っていない児童の検温と記録を行う。（養護教諭との連携）

## 4 授業中

- 授業中は、窓をあけ、常時換気をする。
- ・エアコン使用中でも外側の窓を20cmほど、常に開けておく。廊下側も同様に20cmほど開けておく。
- ・常時換気が難しい場合は、30分に1回、数分程度、2方向の窓を大きく開け、換気を行う。
- ・扇風機による空気の対流も活用する。
- 座席の配置は、全児童前向きで、各席の間の距離を可能な限り確保する。  
（緊急時の避難のため、出入口はふさがない。）
- 室内では原則マスクを着用する。（身体的距離が確保されている場合や児童が息苦しさを感じた場

合は、はずしてもよい。その場合、会話は控える。)

- グループ学習はグループ学習が必要な場面を限定(ねらいを明確化)し、机を少し離れた状態で行う。
- 実験器具、共同の教材、教具、情報機器など共用する物については、使用の都度消毒を行うのではなく、使用前後に手洗いを行うよう指導する。
- 体育科の授業について
  - ・マスクを着用したままの運動は肺や心臓に負担をかける。また熱中症の心配もあるため、原則として、マスクは外す。(体育館・プールでも同様にマスクをはずす。)  
(教師は児童との身体的距離が十分にとれない場合に着用する。)
  - ・マスクを外すことを嫌がる子をつけていてもよい(呼吸がしやすい「家庭用マスク」に限る)が、教師は児童の体調の変化に十分注意する。
  - ・児童が密集する運動等は、運動前後の手洗いの徹底、児童同士が近接する場面を少なくする工夫等の感染症対策(本校の体育の学習活動の取り扱いについてR3・1・8)を行った上で実施する。
  - ・水泳の授業は、市内の感染状況を踏まえた上で、本校の水泳指導感染症対策R3・6・7に則り、十分な対策を講じて実施する。
  - ・集合・整列では隣の人との間隔を十分(1m以上)あける。
  - ・授業の前後の手洗いを徹底する。
- 音楽科の授業について
  - ・常時換気をし、歌う際にはマスクを着用する。また、同じ方向を向き、前後左右の間隔を1m以上開ける。児童が息苦しさを感じた場合は、マスクをはずし、歌唱活動を控える。
  - ・リコーダーや鍵盤ハーモニカ等を演奏する場合は、活動場所のこまめな換気や身体的距離を十分確保するなどの感染症対策を講じた上で市内や校内の感染状況により慎重に判断し、実施する。  
(感染状況のよっては、実施時期を変更するか、学校での指導と家庭における学習の組み合わせにより行う)
- 家庭科の授業について
  - ・調理実習は、マスクの着用、手指の消毒、こまめな換気など、適切な感染症対策を行った上で市内や校内の感染状況により慎重に判断し、実施する。  
(感染状況のよっては、実施時期を変更するか、学校での指導と家庭における学習の組み合わせにより行う)
  - ・衛生管理を一層徹底する。

## 5 休み時間・昼休み

- 窓を大きく開けて、教室の換気を行う。
- 天気の良いときは外に出て遊ぶことを推奨する。
  - ・校庭に出るまではマスクを着用する。
  - ・校庭では原則としてマスクをはずす。人の近くで大きな声を出さないことや互いの体が接触しないように遊ぶことなど、感染リスクを下げるための行動について指導する。
- 雨天時は必要に応じて一人で遊べるものの用意をさせる。お絵かき帳、折り紙、粘土、読書等
- トイレや校庭から戻ってきたら必ずしっかりと手を洗い、ハンカチで手を拭くこと、教室に入るときは手指消毒することを徹底する。
  - ・休み時間と昼休みの後に手洗いの時間を5分間設定し、ゆとりをもって行えるようにする。

## 6 給食

- 配食を行う児童及び教職員の体調や衛生的な服装、手洗いや手指消毒について毎日確認する。
- 当番以外の児童の手洗いや手指消毒を徹底する。
- 前向き給食とし、おしゃべりは控える。(飛沫を控えるため)
- 机上にハンカチを置いていつでも使用できるようにするなど、咳エチケットを徹底する。
- 片付けは各自が行う。(マスクを着用して)

## 7 清掃

- 水曜日に清掃タイムを設定する。マスクを着用し、換気のよい状態で実施する。
- 清掃終了後は、必ず石けんを使用して手を洗う。

## 8 帰りの会

- 帰宅後の過ごし方について指導する。
  - ・十分な睡眠時間と食事、適度な運動等の規則正しい生活を送る。
  - ・不要・不休の外出は控える。
  - ・発熱や咳等の症状がある場合は登校しない。

## 9 放課後

- 多くの児童が手を触れる場所（ドアノブ、手すり、スイッチ等）の消毒を行う。(床や机・椅子 トイレ・洗面所を消毒する必要はない。一時的な消毒の効果を期待するより、清掃により清潔な空間を保ち、健康な生活により児童の抵抗力を高め、手洗いを徹底することの方が重要)

## 10 部活動について

- 足利市「新型コロナウイルスの感染症に対応した部活動実施マニュアル」を踏まえ、教師の監督のもとに、上記の「4 授業中」に準じた配慮を行い、実施する。

## 11 学校行事について

- 入学式、卒業式、朝会、運動会等、感染症対策を講じ、実施方法の工夫・改善を行いながら適切に実施する。
- 修学旅行、遠足等は、旅行先の感染状況及び予防対策、学校の感染予防策、保護者の考え、そして何よりも参加する児童一人一人の自覚、これら4つの観点から総合的に判断する。
  - ・目的地も含めた、地域の直近の感染状況等を十分に踏まえる。
  - ・活動時だけでなく、移動時、宿泊時も含めた感染防止策を講じる。
  - ・保護者・児童に対して、緊急時の対応等も含め、丁寧に説明をし、理解を得る。

## 1.2 児童の心のケアについて

- 「自分が感染したらどうしよう。」「家族が感染したらどうしよう。」不安を抱いている児童がいることを念頭に、日々の指導にあたる。
- 感染は誰にでもあり得ることであり、感染者や濃厚接触者等への偏見や差別は、決してしないことを指導する。

## 1.3 その他

- 感染症対策について発達段階に応じた指導を行い、自分で考え、適切な行動がとれる児童の育成を目指していく。
- 児童及び教職員の感染または濃厚接触が判明した場合は、「新型コロナウイルス感染症が発生した場合などの対応（足利市教育委員会）」に従って、速やかに対応する。
- 臨時休業や出席停止等により、出席できない児童に対し、学習に著しい遅れが生じることのないように、ICTを活用したり、課題の工夫をしたりして、きめ細やかな指導・支援に努める。

※ 新しい知見に基づく文部科学省、県教委、市教委等の通知を受け、常に改善を図るとともに、実践を通じて常に改善を図る。

### 1 感染リスクが高いのは、「3密」と「大声」

- ① 「密閉」の回避（換気の徹底）
- ② 「密集」の回避（身体的距離の確保）
- ③ 「密接」の場面への対応（マスクの着用）

### 2 感染症対策3つのポイント

- ① 感染源を絶つ。（毎朝の検温、健康観察の徹底）
- ② 感染経路を絶つ。（手洗い、マスクの着用、消毒）
- ③ 抵抗力を高める。（バランスのとれた食事）